

原 報

ヘクソカズラの果実の成分研究 新規イリドトイド Paederia lactone の構造

鈴木 稔徳, 遠藤 泰之

Studies on the Constituents of the Fruits of *Paederia scandens*.
Structure of A New Iridoid, Paederia lactone

Shigenori SUZUKI and Yasuyuki ENDO

(Received November 22, 2004)

Paederia lactone (**1**), a new iridoid, was isolated from the fruits of *Paederia scandens* (Lour.MERR.) (Rubiaceae). The structure of **1** was elucidated by analysis of spectroscopic data and confirmed by single-crystal X-ray diffraction analysis.

Key words — *Paederia scandens*; Rubiaceae; *Paederia lactone*; NMR; CD Spectrum;
Single-crystal X-ray diffraction analysis

ヘクソカズラは、アカネ科 (Rubiaceae) に属する植物で、晩秋には赤黄色の実をつける。その搾汁は、悪臭を有するが、霜焼けに効果があると言われている。また、ベトナム、タイ、ミャンマーでは、歯痛、胸の痛み、痔、利尿性およびリウマチ性の関節炎並びに細菌性の赤痢の治療に処方されている。ヘクソカズラの化学成分としてはこれまでに井上らにより、paederoside (**2**)、asperuloside, paederosidic acid (**3**)、deacetylasperuloside、及びscandosideが単離報告^{1),2),3),4)} されている。また、最近浅川らは、ベトナム産のヘクソカズラから新規イリドトイド配糖体の二量体を報告⁵⁾している。先に、著者らは、ヘクソカズラのエーテルエキスから精油成分及びトリテルペンを報告⁶⁾し、また、メタノールエキスからイリドトイド配糖体を報告⁷⁾した。今回更に、エーテルエキスについて成分検索を行い、*paederia lactone* (**1**) と命名した新規イリドトイドを単離することが出来たのでその化学構造について報告する。化合物**1**は、低分解能 (LR) MS から *m/z* 284 に分子イオンピークが観察され、高分解能 (HR) MS から C₁₂H₁₂O₆S の分子式が示された。IRスペクトルから 1770 cm⁻¹ に

ラクトン、1702 cm⁻¹ にエステルの存在が観察された。

¹H-NMRスペクトルにおいては δ_H 2.37 のメチル基のシグナルから methylthiocarbonyl 基をもつことが示唆された。Distortionless enhancement by polarization transfer (DEPT) スペクトルからは、メチン基 7 個、メチレン基 1 個、メチル基 1 個、および 3 個の四級炭素が明らかとなり、このことからも化合物**1**の分子式が支持される。

次に化合物**1**の水素の連結性を ¹H-¹H shift correlation spectroscopy (¹H-¹H COSY) スペクトル (Fig.1) より考察した。すなわち、H₁-H₉, H₃-H₄, H₆-H₇, H₇-H₁₀ に相関が観察されたことから化合物の部分構造が示された。Heteronuclear multiple-bond connectivity (HMBC) スペクトル (Fig.1) においては C₈-H₇, C₈-H₁₀, C₈-H₉, エステルの C=O と SCH₃, H₁₀ とエステルの C=O, ラクトンのカルボニル基の C₁₁ と H₁ に相関が認められている。以上から、化合物**1**の平面構造は、Fig.1 に示す式であることが明らかとなった。

次に立体構造を検討するために nuclear overhauser enhancement spectroscopy (NOESY) スペクトル (Fig.1) を測定した。その結果、H₄

と H₆, H₅ と H₆, H₁ と H₉, および H₃ と H₄ に相関が認められた。特に H₄ と H₆ に相関が認められたことは、五員環とテトラヒドロピラン環の結合部位 (H₅ と H₉) の配置が、シス β 配置であることが示され、化合物**1**は、Fig.1 に示した立体構造をとっていると考えられる。

更に、化合物**1**をメタノールから再結晶することにより得た単結晶の X 線結晶解析により、その構造が正しいことを実証することができた。

(Fig.2)

次に、化合物**1**の絶対構造を検討した。化合物**1**の circular dichroism (CD) スペクトルは、224nm に負のコットン効果を示した。(Fig.3)

δ ラクton の CD とコンフォメーションの相関について Wolf⁸⁾ や Beecham⁹⁾ らの報告がある。すなわち、δ ラクton は、ポート型 または、

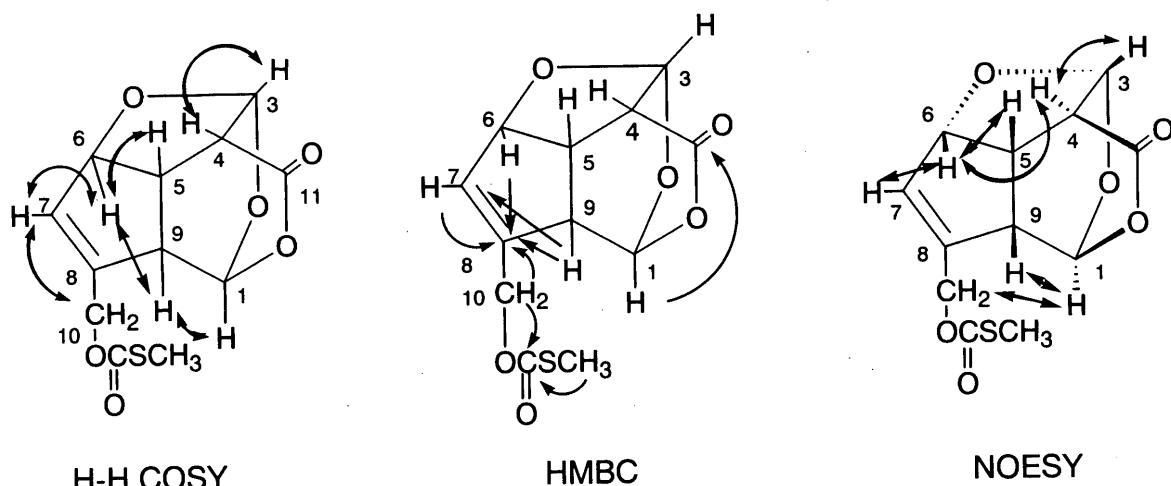


Fig. 1. ¹H-¹H COSY, HMBC and NOESY Correlations for **1**

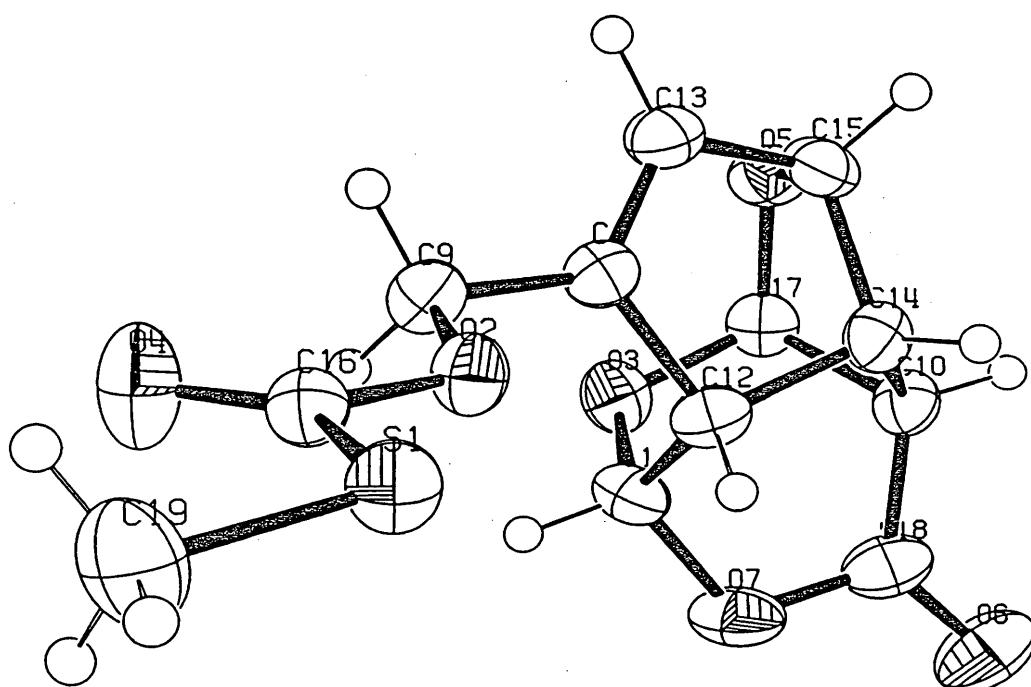


Fig. 2. ORTEP drawing of **1**

ツイスト型のコンフォメーションを取り、Fig.4に示したコットン効果を示すことが報告されている。

化合物**1**は、負のコットン効果を示していることから化合物**1**のラクトン環のコンフォメーションは、**I_B-b**形をとり、化合物**1**の絶対構造は、Fig.1に示した様になる。

化合物**1**の生合成は、次のように考察される。(Fig.5) すなわちこの植物に含有しているpaederoside(**2**)のC₄-C₆位のラクトン環が開裂し、paederosidic acid (**3**)となり、次に糖が脱離し、C₁位のヘミアセタールが開裂してC₁位がアルデヒドとなり、C₃位は、エノール水酸基のためアルデヒドとなる。そして、C₃位アルデヒドにC₆位の α 位の水酸基がヘミアセタールを形成し、C₃位のヘミアセタール水酸基がC₁のアルデヒドと更にヘミアセタールを形成する。そして生成したC₁位の β 位のヘミアセタール水酸基にC₄位 β 位のカルボン酸がエステル結合してラクトン環を形成するものと考えられる。

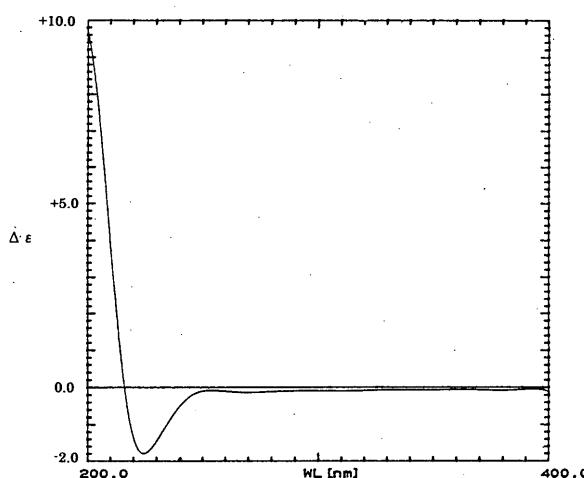


Fig. 3. CD Spectrum of **1** (MeOH)

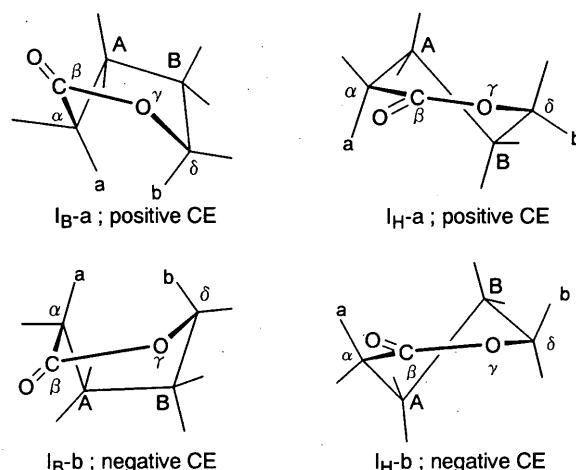


Fig. 4. Correlation of Cotton Effect and Comformation of δ -lactone

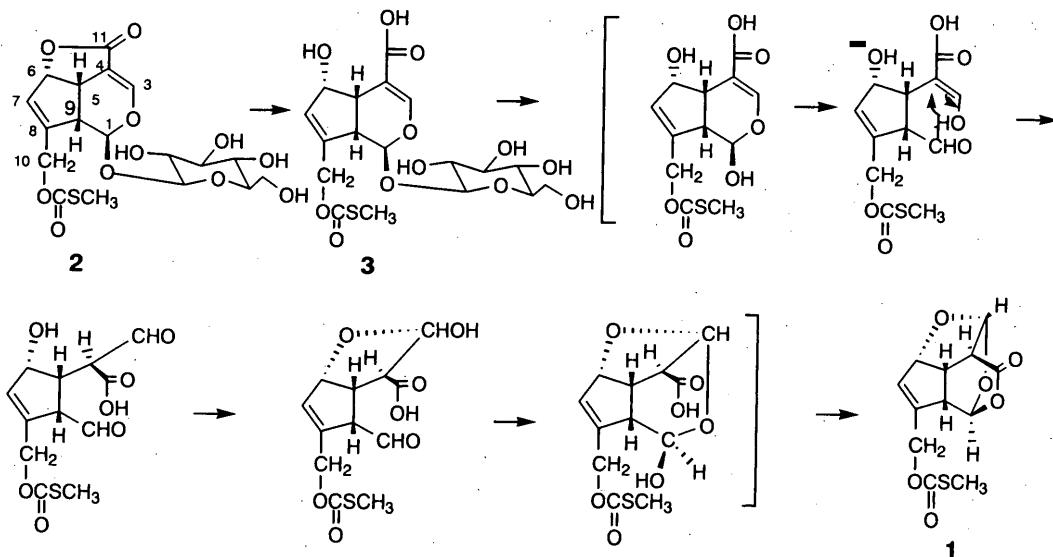


Fig. 5. Possible Biogenetic Pathway of **1**

実験の部

融点測定は, BÜCHI535融点測定装置を使用し, 未補正. IRスペクトルは, Perkin elmer 1600 series FT-IR spectrophotometer を用いて測定した. 旋光度は, 日本分光DIP-360型, UVスペクトルは, Beckman DU-64型, CDスペクトルは, 日本分光J-700 型を使用し, 測定した. 電子イオン化 (EI) および (HR) -MSスペクトルは, JEOL JMS-DX303/JMA-DA 5000 spectrometer を用いて測定した. ¹H および ¹³C-NMRスペクトルは, JEOL JNM-LA600型を使用した. 化学シフトは, tetramethylsilane [(CH₃)₄Si] を内部標準物質とし, δ 値 (ppm) で示した. 結合定数 (J) は, Hz で示した. ¹H-NMR の略語として s (singlet), d (doublet), dd (double doublet),ddd (double double doublet) および br (broad) を用いた. シリカゲルカラムクロマトグラフィーは充填剤に Merk Silica gel 60 (230-400mesh) を使用した. X線結晶構造解析装置は, Rigaku RAXIS-RAPIDを使用した.

Paederia lactone (1) の単離

2002年の11月仙台近郊で採集したヘクソカズラの果実2.4 kgをエーテルで数回冷浸し, エーテル抽出液を濃縮. エーテルエキスを40.5gを得た. シリカゲルカラムクロマトグラフィー (n-hexane : 酢酸エチル = 7 : 3) に付すことにより, 化合物 1 (240 mg) を得た.

Paederia lactone, 無色結晶, mp187 °C. IR (KBr) cm⁻¹: 1770, 1702. HR-MS Calcd. 284.0345 Found 284.0340 C₁₂H₁₂O₆S EI-MS (*m/z*) (%): 284 (M⁺, 3%), 227(4), 212(4), 192(10), 183(4), 164(100), 147(10), 136(42), 119, (72) 108 (13), 91(93), 75(56), 65(30), 47(23), 32 (8). [α]_D²³=+9.0° (c= 2.0, CHCl₃). UV λ max(CH₃OH) nm (log ε): 204 (3.65). CD (CH₃OH): Δε (nm) (c=3.64 × 10⁻⁴M): -1.78 (224.0). ¹H-NMR (600MHz, CDCl₃) δ: 2.37 (3H, s, SCH₃), 3.20 (1H, dd, *J*= 3.3, 5.1 Hz, H₄), 3.23 (1H, d, *J*=8.0 Hz, H₉), 3.33 (1H, ddd, *J*=4.7, 5.1, 8.0 Hz, H₅), 4.83 (1H, d, *J*=14.0 Hz, H₁₀), 4.89 (1H, d, *J*=14.0Hz, H₁₀), 5.01 (1H, dd, *J*=1.5, 4.7

Hz, H₆), 5.54 (1H, d, *J*=3.3 Hz, H₃), 5.77 (1H, br s, H₁), 6.23 (1H, d, *J*=1.5 Hz, H₇). ¹³C-NMR (CDCl₃ 150MHz) : 13.6 (SCH₃), 42.0 (C₅), 47.1 (C₄), 52.1 (C₉), 63.4 (C₁₀), 84.7 (C₆), 96.4 (C₁), 100.5 (C₃), 133.9 (C₇), 141.6 (C₈), 168.7 (C₁₁), 171.4 (C=O). ¹³C-NMR (CD₃OD 150MHz) : 13.6 (SCH₃), 43.3 (C₅), 48.3 (C₄), 53.4 (C₉), 64.8 (C₁₀), 86.4 (C₆), 98.3 (C₁), 102.0 (C₃), 134.7 (C₇), 143.6 (C₈), 171.5 (C₁₁), 173.0 (C=O).

Paederia lactone のX線単結晶解析

Crystal size 0.10 × 0.10 × 0.10mm. Other crystal data C₁₂H₁₂O₆S, colorless, needles, orthorhombic, lattice type Primitive, space group P2₁2₁2₁, Z=4, a=6.1618(2) Å, b=11.3749 (5) Å, c=17.288(6) Å, V=1211.72(7) Å³, Dcalc=1.558g/cm³, Fooo 592.00 and μ (MoK α) = 2.88cm⁻¹.

Intensity Measurements were Diffractometer ; Rigaku RAXIS-RAPID, Radiation MoK α (λ = 0.71069 Å) graphite monochromated, Detector Aperture 270mm x 256mm, Data Images 44 exposures, ω oscillation Range (χ = 45.0, φ = 0.0) 130.0-190.0°, Exposure Rate 6.0 sec.⁻¹, Detector Swing Angle 0.00°, ω oscillation Range (χ = 45.0, φ = 180.0) 0.00-160.0°, Exposure Rate 6.0 sec.⁻¹, Detector Swing Angle 0.00°, Pixel Size 0.100mm, 2θ max 54.9°, No. of Reflections Measured Total:11636 Unique:1611 (R_{int}=0.086) and Corrections Lorenz-polarizationabsorption (trans,factors : 0.3384-1.5750). Structure solution and Refinement were Structure Solution Direct Methods(SIR92), Refinement Full-matrix least-squares on F², Function Minimized Σ w (F_o²-F_c²)², Least Squares Weights 1/[0.003F_o²+1.000 σ²(F_o)]/(4F_o²), Anomalous Dispersion All non-hydrogen atoms, No. Observations(I > -10.00 σ (I)) 1602, No. Variables 184, Reflection/Parameter Ratio 8.71, Residuals: R₁;wR₂ 0.045;0.129, Goodness of Fit Indicator 1.01, Max Shift/Error in Final Cycle 0.00, Maximun peak in Final Diff. Map 0.26e-/Å³ and Minimum peak in Final Diff. Map -0.34e-/Å³.

謝辞 本研究にあたり、NMR および Mass スペクトルを測定して頂いた本学中央機器室、佐藤真一、松木智之両氏に深謝致します。また UV, CD スペクトルを測定して頂きました本学第二薬品分析学教室、町田浩一講師に深謝致します。

REFERENCES

- 1) Inoue H., Inoue S., Shimokawa N., Okigawa M., *Chem. Pharm. Bull.*, **17**, 1942-1948 (1969).
- 2) Inoue H., Inoue S., Shimokawa N., *Chem. Pharm. Bull.*, **17**, 1949 - 1954 (1969).
- 3) Suzuki S., Hisamichi K., Endo K., *Heterocycles*, **35**, 895-900 (1993).
- 4) Kapadia G. J., Shukla Y. N., Bose A. K., Fujiwara H., Lloyd H. A., *Tetrahedron Lett.*, **22**, 1937-1938 (1979).
- 5) Quang D.N., Hashimoto T., Tanaka M., Dung N. X., Asakawa Y., *Phytochemistry*, **60**, 505-514 (2002).
- 6) Suzuki S., Kurihara T., *Yakugaku Zasshi*, **95**, 1380-1383 (1975).
- 7) Suzuki S., Endo K., *Tohoku Yakka Daigaku Kenkyu Nempo*, **40**, 73-78 (1993).
- 8) Wolf H., *Tetrahedron Lett.*, 5151-5156 (1966).
- 9) Beecham A.F., *Tetrahedron Lett.*, 2355-2360 (1968).